



「多賀城発で多賀城着。」

「tag(たっぐ)」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援する月刊フリーペーパーです。

多賀城→七ヶ浜 車イスでまち歩き

「東京2020オリンピック・パラリンピック」に向けてキーワードとなる『ユニバーサル(普遍的、誰にとってもという意味)』。たがさぼでは9月13日(金)に「ユニバーサルまちあるきツアー」を企画し、車イスで生活する人、そうでない人が一緒に目的地へ向かいながら「誰にとってもやさしいまち」について考えました。

多賀城駅前をスタートし、七ヶ浜町の菖蒲田海水浴場で開催していた「SEVEN BEACH Light Up FES 2019～光のミチヒキ～」がゴールです。普段、車イスを使っていない人も車イスに乗り、買い物、バス・電車・タクシーの乗車、イベントへの参加を体験しました。いつものまちで日々何気なく行っていることを、いつもとは違う視点や状態で『見る』『やる』ことで、新しい気づきや、車イスで生活している人の日常を自分のこととして考えるきっかけになりました。



目線が変わると違った風景が見えてきます。



足漕ぎ車イスでの参加者もいらっしゃいました。車イスも多様です。



坂道も登ってみました。ゆるやかでも力が必要です。

ヒント from たがさぼPress

たがさぼのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します!

- 2019年9月12日(木)掲載 / 若い力が、献血を呼びかける
- 2019年9月21日(土)掲載 / 災害支援それぞれの場所でできること
- 2019年9月26日(木)掲載 / 秋の夜長、目で見て、手でさわって、みんなで絵本を楽しもう

“たがさぼPress”とは?

たがさぼスタッフによるブログ。興味がわいたら「たがさぼPress」へ!
<http://blog.canpan.info/tagasapo/>



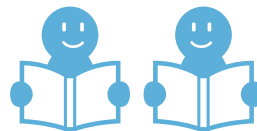
“tag”のアンケートのお願い

今後の誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします!
 また、以下のような情報もお待ちしております!

- 自分たちの団体を取材してほしい
- ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている
- こんな話題を取り上げてほしい

たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します



NPOの絵本、読めます!

たがさぼでは、NPOが制作に関わる、さまざまな社会課題をテーマにした絵本を収集しています。
 普段は、たがさぼ1階エントランスに展示しており、自由に読むことができます。館内だけでなく、市内外のイベントに「NPOの絵本展」として出展することもありますので、見つけた際はぜひご覧ください。
 また、「絵本展を呼びたい!」というリクエストがありましたら、日時・場所・内容などはご相談に応じますので、ぜひお声がけください。

内容	絵本の展示、読み聞かせなど
対象	企業、NPO、幼稚園・保育所・学校、各種イベントなど
費用	無料
問合せ	022-368-7745(多賀城市市民活動サポートセンター)

一緒に考えてみよう 本当に住みやすい「ユニバーサルなまち」とは？

ユニバーサルまちあるきツアーでは、表示・アナウンスの分かりやすさ、道・設備・道具などの使いやすさ、周囲の人の接し方やコミュニケーションの取り方など、さまざまな発見がありました。では「障がいの有無、国籍、年齢、性別を問わずどんな人にとってもやさしいまち」に必要なことは何でしょうか。参加者の気づきの中から考えてみます。

1 感じたこと、思ったことを共有しよう！

ツアーでは、参加者が感じたことを語り合う時間を設けました。車イス体験を通して「普段、特に意識していなかったドアを開ける・ものを購入する、といった行動が、車イスだと難しい場面も多々あった」「多目的トイレの案内板なども立っていれば目に入るが、車イスの目線の高さだと気がつきにくい」などの気づきがありました。

また、普段から車イスで生活している方から「交通機関を利用する時に、行きと帰りの利用時間や区間などをあらかじめ伝えることを求められる場合が多い」との体験談もありました。それを聞いた他の参加者からは「事前に伝えないと交通機関を利用できないのもバリア(障壁)ではないか？」との意見がありました。

車イスで生活している人の目線を体験したり、当事者の体験談を聞くことができ、参加者にとって貴重な体験となりました。

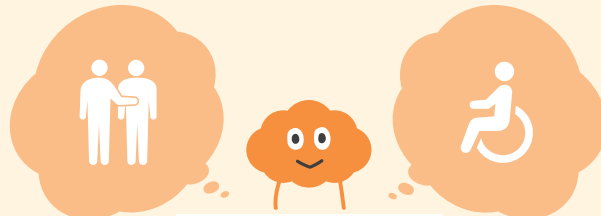
2 「想像」「共感」「自分ごと」からはじめよう！

今回のツアーは、自分と異なる立場に立つことで普段と違う気づきがあったり、バリアを自分ごととして考えたりする機会となりました。日々の暮らしの中でも、たとえば「車イスの人にとって使いやすيدらうか」「外国の人にも分かりやすيدらうか」というように、少し違う立場の人を想像してみたいかがででしょうか。段差をなくすといった物理的なバリアフリーももちろんですが、相手のことを想像する、相手の考えに共感する、そして自分ごととして考えてみるのが「ユニバーサルなまち」の第一歩ではないでしょうか。



参加者同士で気づきを共有。他の人の意見を聞くことも大事です。

気づくこと、
考えること自体にも
価値があるね。



参加者が考えた

ユニバーサルなまちに近づくため、 今、自分たちにできること

いろいろな人がまちをいろいろな視点で見えてゆくこと。

いろいろな人が障がい者など、多様な人と関わりを持つこと。

自分の身近な人に、今回の気づきを話していくこと。

すべて自分のこととして考える。

車イスだからではなく、自然な感覚で対応しあう気持ちが大切かと思えます。

人としての思いやりと相手の立場になって物事を考える力、共感力、想像力。

実際にその立場にならないと分からない・気づかないということが多分にあると思う。

みんなが普通に思っていることがバリアになっていることがある。それを「おかしい」という。

障がいがあるとかないとか、わざわざ考えなくていいくらい世の中になったらいいのに。

詳しくは、たがさぼPressもご覧ください！

ユニバーサルまちあるきツアー報告②
～車イスでバスに乗って、フェスを見学するツアー～

前編...2019年9月29日(日)掲載
後編...2019年10月6日(日)掲載



What's? //



「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



@tagasapo
たがさぼのツイッターへの
フォローをお願いします！



<https://www.tagasapo.org/>
たがさぼのホームページは
こちらへアクセス！